

鈴鹿医療科学大学 同窓会会報 2006 秋

平成18年10月10日発行

発行：鈴鹿医療科学大学同窓会 事務局
〒510-0293 三重県鈴鹿市岸岡町1001-1
鈴鹿医療科学大学内
FAX:059-383-9666
E-mail:maile@surs-aa.com
ホームページアドレス: http://www.surs-aa.com

2006年度 碧鈴祭【同窓会ブース】のお知らせ

来る11月4日(土)～5日(日)、今年で16回目を迎える鈴鹿医療科学大学大学祭『碧鈴祭』が開催されます。

今年も昨年度に引き続き、同窓会ブースを設置します。なお、今年は同窓会ブースでは、[くじ引きによる抽選会]を行います。特賞は、大人気の携帯型ゲーム機『ニンテンドーDS』です！ また、一等として、USB端子から簡単に音楽を持ち出せるMP3プレーヤー『SONYネットワークウォークマン』を用意いたしました。その他、空クジ無しの大抽選会となっております。是非、本会報に付いている抽選券をご持参の上、『碧鈴祭』同窓会ブースにお越しください。なお、同窓会ブースの場所は、実習棟2階4206室(開設時間：両日ともAM11:00～PM2:00)です。なお、同窓会ブース前には、テーブルと椅子を用意いたします。お友達との待ち合わせ場所として、あるいは、懐かしい思い出話など歓談の場所としてご利用ください。(ただし、大学施設につき、室内においてある備品には手を触れないようお願いいたします。)

大学祭期間中は、インディーズバンド「ムラマサ☆」、「midnightPumpkin」による、恒例のゲストライブが行われるほか、鈴鹿消防署の協力により、「はしご車体験」「地震車体験」イベントも行われます。詳しくは、『碧鈴祭』実行委員会HP (<http://www.suzuka-u.ac.jp/jim/gakusai/index.html>) をご覧ください。

さわやかな秋の一日、懐かしい同窓生と大学で再会してみませんか？ 皆様のお越しを、お待ちしております！
なお2006年度碧鈴祭[同窓会ブース]のお知らせや同窓会ブースに関しての変更等は、鈴鹿医療科学同窓会ホームページ(<http://www.sums-aa.com/>)でも随時掲載しますので合わせてご覧ください。



【同窓会抽選会プログラム】

場 所 実習棟2階 4206室 時 間 両日とも AM11:00～PM2:00

抽選方法 [抽選券]をご持参の方に限り、1回、くじを引いていただけます。

特賞 ニンテンドーDS

1等 SONYネットワークウォークマン

※他、5等まで空クジなし。

注意事項:特賞および一等当選の場合、会報「卒業生だより」に記事掲載・ご紹介させていただくことをご了承願います。

目次 ~index~

●2006年度碧鈴祭【同窓会ブース】のお知らせ..... P1	●OLIVE同窓会を開催して..... P5
●大学祭News..... P2	●平成19年度入試概要..... P6
●卒業アルバムのご案内..... P2	●維持会費システム報告..... P6
●恩師からのメッセージ..... P3	●2005年度同窓会活動報告..... P7
●新卒業生だより..... P4	●各種証明書の発行のご案内..... P8
●同窓会掲示板..... P4	●..... P8
●卒業生だより..... P5	●編集後記..... P8

2006年
碧鈴祭 同窓会 抽選券
11/4、11/5のみ有効

大学祭News

鈴鹿医療科学大学碧鈴祭も16回目を迎え、年ごとににぎわいも増し、在校生・卒業生を始め、地域の方々の参加も多く参加されるようになりました。懐かしい母校の大学祭にぜひ遊びに来てはいかがでしょうか？今年度碧鈴祭のみどころを今年度大学祭実行委員長の明間陵さん(放射線技術科学科3年生)に紹介してもらいました。



鈴鹿医療科学大学大学祭「碧鈴祭」は今年で16回目となります。今年の大学祭は11月4日(土)および5日(日)に開催いたします(時間10:00~16:00)。

さて、今年のテーマですが、「わ」とさせていただきます。「わ」には、和み・平和の「和」、会話の「話」、繋がりの「輪(環)」、笑いの「わ」、そして驚きの「Wa」を含んでいます。そのため、多くの人に和んでいただける、繋がりをもっていただける、交流をもっていただける、笑っていただける、驚いていただける大学祭にしたいと思っております。

内容についてですが、テーマの目的を果たすため、今年は多くのイベントを用意させていただきました。鈴鹿太鼓の演奏や、よさこい踊りの披露、大道芸やフリーマーケット、はしご車・地震体験車への搭乗、そして複数のインディーズバンド・お笑いによるゲストライブと楽しんでいただけるものばかりと思っております。もちろん、各クラブ・サークルによる模擬店や各学科の学科発表も行います。今年も安くおいしい模擬店がたくさんあります。学科発表も、新設の学科が出来て4年目、3年目となり、より充実した内容となっていると思っております。

今年の大学祭は卒業生の皆様が体験された大学祭よりも、一味違った大学祭になると思っております。ぜひご来場いただきますようお願いいたします。

また、大学祭の詳細内容や現在の進行状況については碧鈴祭ホームページ(<http://www.suzuka-u.ac.jp/jim/gakusai/>)を見ていただくと幸いです。何卒よろしくようお願いいたします。

現4年生の
皆さんへ

卒業アルバムご購入のご案内

(東写真工房(株)より)

就職活動、卒業研究と慌ただしい日々をお過ごしのことと思います。

さて、10月より卒業アルバムの撮影を随時行っております。卒業アルバムは校舎に始まり理事長、学長先生始め先生方の写真、学科別個人写真やサークル活動などがB4サイズアルバムで構成されています。一生の宝物として頂けると幸いです。

卒業アルバムの価格は24000円以下(注冊数により変動します)で、平成19年8月中旬に代引きにて発送いたします。

購入希望の方は写真撮影の際、所定用紙に必要事項を記入して提出してください。

ご不明な点やお問い合わせなどは下記までご連絡ください。

鈴鹿医療科学大学指定 東写真工房(株) TEL:059-353-9255まで



恩師からのメッセージ

卒業生に向けて・・・ 鈴鹿医療科学大学の2006年

医用工学部 臨床工学科学科長 伊原正先生



鈴鹿医療科学大学は、1991年の創立以来15年を経過し、先日も第12回の卒業式を無事終了しました。しかし、今年は何れにも悲しいお知らせからお伝えしなければなりません。皆さんがお世話になった柳原正一元学生課長が本年5月13日に、亡くなりました。67歳でした。通夜葬儀に、駆けつけた卒業生の方や、香典を託された卒業生の方も沢山おりました。改めてご冥福をお祈りいたします。

キャンパスは、7学科に増えてからは大分様子が変わりました。新講義棟ができたこと、ラウンジが刷新されたことなど、最近訪れていない方には新鮮な驚きが多々あると思います。臨床工学科について言えば、医用電子工学科卒業生の多くの方が複雑な思いであろうかと思えます。自分の卒業した学科が無くなるのはやはり寂しいものです。しかし、全く無関係な学科になった訳ではなく、仕事の上でも卒業生と触れ合う機会は多いのではないかと思います。学科は変わっても「先輩」として新しい卒業生に優しく接して頂きたいと思っています。

また、ホームページにも掲載されましたが、「科目等履修生」制度で今までの医用電子工学科卒業生全てが、「臨床工学技士」の国家試験受験資格を取得できるようになりました。既にこの制度を利用して「臨床工学技士」の国家試験受験資格を取得し、国家試験に合格して医療機関に就職した学生が2名おられます。就職についても臨床工学技士は、臨床工学科40名の定員に対して250件を越す求人があり、まだまだ将来性が高い職種です。医用電子工学科の時に資格を取りたかったけれども諦めていた方は是非検討してみてください。

大学の医療機器も少しずつ新しいものが導入され、4年制のコメディカル養成校として、設備の面では他の大学、専門学校に対して誇れるものがあると思います。具体的には、FPDと呼ばれる最新のデジタルX線撮像装置、デジタル超音波診断装置、リハビリテーション関連機器、AEDなどが導入されました。また、ネットワーク教育環境も充実し、医学辞典などの辞書サーバ、「今日の診療」ネットワーク版、ビデオオンデマンドシステムによる医学生理学の既成教材や講義資料などのビデオ配信システムが導入され、ほぼ全教室マルチメディア化された環境の中で大いに活用されています。残念ながら学外からはアクセスできないのですが、学園祭などで大学を訪ねる機会があれば是非見てください。

卒業生の方には、大学を訪ねて来てくれる方の他にも、「国際医用画像総合展」や、「体外循環技術研究会」などの学会、研究会でお会いする方も少なくありません。一期生や二期生の方はもう中堅で活躍している方も多く、大変頼もしく見えます。4年制大学の卒業生ということ皆さんは、普段あまり意識されていないかと思いますが、医療機関や会社の中ではやはり区別して見られています。本学出身者はやはり医療に関してモチベーションが高く、貢献度が高いと言われることが多々あります。そのような時は本当に嬉しく思いますが、転職してしまう学生もかなりいることもまた事実です。まわりのスタッフと協調しながらいかに上体性を発揮できるかが重要なポイントになるかと思えます。以前、三菱半導体という会社の社長さんから、「会社は、それぞれの社員が30代前半になると、将来どのような地位を用意していくか大体決めている」とのお話を伺いました。皆さんも今のくらい頑張れるかで将来が決まってしまうくらいの覚悟で仕事に取り組んで欲しいと思います。皆さんの努力によって、皆さんの子供達から「お父さんやお母さんはあの有名な『鈴鹿医療科学大学』に通っていたんだね」と言われるように健闘して欲しいと思っています。



母校レポート 2006年度大学・大学院入学式が挙行されました。

桜の満開と重なった2006年4月6日、鈴鹿医療科学大学入学式が挙行されました。今回の入学式は学部第16回、大学院第11回になります。真新しいスーツを身にまとった455名の大学・大学院新入生たちが緊張した面持ちで入学式に臨む姿がとても印象的でした。今年度で保健衛生学部医療福祉学科、鍼灸学部鍼灸学科が開設されて3年目となり、ますます学生の数も増え、大学内もとてもにぎやかになりました。入学式終了後、学科ごとに入学記念写真を撮影していただきました。この写真は入学後、新入生全員に鈴鹿医療科学大学同窓会からの入学記念品として後日、新入生のみなさんに贈呈されました。

翌日の4月7日、10日には新入生オリエンテーションが行われました。初めての講義室で各学科の先生方の話を不安と期待に満ちた表情をしながらも真剣に聞き入る姿が見られました。新入生歓迎会では在校生の明るい表情に触れ、先輩たちからの熱い歓迎を受け、大学生活への期待がますます大きくなったのではないかと思います。

今年度入学した455名の新入生の方々は入学と同時に同窓会準会員として入会していただきました。同窓会への在校生の入会により今まで以上に母校との交流が盛んになるきっかけとなればと感じます。



新卒業生だより

今春卒業した新卒業生の方々が社会に出て約半年が経ちました。学生生活とは大きく違い、日々の中で紆余曲折があるのではないかと思います。今回、社会人として半年が経った今、新卒業生の方々に近況や大学時代の思い出などを聞いてみました。

西澤 まどかさん 医療栄養学科卒

皆さんこんにちは、西澤まどかです。
私は、4月から四日市にある学校法人古川学園 中部調理製菓専門学校で教職員として働いています。古川学園には、調理師科・製菓衛生師科・調理製菓総合コースとがあり、私は調理師科の調理実習を担当しています。主な仕事の内容は、調理実習で使用する器具などの準備、食材の買出し・発注や材料分け、実習後の後片付けなどです。授業も一部担当し、生徒に教えさせていただいています。
調理師科なので、実習はプロの講師の方々が教えていらっしゃいます。和食・洋食・中華それぞれのプロの先生方の素晴らしい技術や、おいしい料理を目の当たりにし、毎日が感動の連続です。また、これまで使ったことのない食材や調味料などもよく使われるので、食材事典や調理用語辞典などで調べるなどして、日々勉強中です。
生徒とは年齢が近いこともあり、食べ物の話はもちろん、その他にもいろいろな話を和気あいあいと話したり、笑ったりして楽しく仕事をしています。
大学では4年間、管理栄養士を目指して勉強する中で、栄養について細かく考えたり、病態に応じたメニューを作成し、それをもとに実習してきました。今は少し違って、見た目や味などを追求した料理について学んでいます。関わっている内容は大学と今とでは違いますが、誰かにおいしい料理を食べてもらいたい、喜んでもらいたい、幸せになってもらいたいという気持ちに変わりはありません。これからも、これまでと同じような気持ちで調理に携わり、毎日少しずつでも調理の技術や知識を身に付け、学校や家庭などいろいろな所で役立てていきたいと思っています。技術と知識がもっと増えたら、大学時代に学んだ栄養のことも一緒に考えて、栄養バランスも良くて、見た目や味も素敵な料理を作りたいと思います。
また、半年前までは自分が生徒だったけれど、今では先生側にいます。生徒のサポートや先生としての役割など、難しいこともありますが、生徒だった頃の気持ちを忘れずに、今の生徒たちと一緒に成長していければいいな、と思っています。社会人としての人生は始まったばかりですが、楽しく過ごしていきたいです。

占部 沙織さん 放射線技術科学科卒

大学を卒業して、病院で働き始めて早くも五ヶ月が経ちました。鈴鹿で過ごした四年間がつい昨日のこのように思い出されます。就職した初めの頃は、学生と社会人の大きな違いに戸惑うことも多く、慣れない環境で不安でいっぱいの日々でした。最近では、やっと病院にも慣れ、CTやマンモグラフィーを頑張って勉強しています。大学では、多くのことを学んできましたが、実際に五ヶ月間、患者様と接してきて、改めて多くの事を学びました。CTなどの検査では、重い病気を持った患者様や造影剤に不安を持たれた患者様などそれぞれに不安を抱え、検査に来られます。初めのうちは、患者様に対して何を話せばいいのかわからず、必要以外のことは話さずに、淡々と仕事をこなしていました。ある日、先輩の患者様への接し方を見たとき、とても丁寧で安心感が伝わってきて、私も検査をするならこういう風にしてもらいたいと思いました。患者様も検査に満足されており、接遇の大切さを実感しました。最近では、なるべく積極的に話しかけるようにしています。短時間の検査の中で患者様と信頼関係を築くのは、とても難しいことではありますが、私も早く安心感を与えられるような放射線技師になりたいです。
大学の時は、励ましてくれる友達や悩みを一緒に共感してくれる友達が近くにいてくれましたが、就職して改めて友人の存在の大きさや大切さもわかりました。よく去年の今頃は、何をしていたかなと考えます。去年一年間は、勉強や模試で大変でしたが、不思議と今では良い思い出です。仕事で上手くいかなく、落ち込むこともよくありますが、遠く離れた友人たちもそれぞれに頑張っていることを励みにして私も頑張っています。
今度、乳がんの早期発見のため、マンモグラフィーの検診を進める勉強会が開かれます。そこで発表することになり、今、マンモグラフィーと乳腺エコーについて、勉強中です。大勢の人前で話すのが苦手な私ですが、これも良い勉強と思い、頑張ってみようと思っています。九州でなかなか先生方や先輩、友達に会えないですが会える日を楽しみにまた頑張ろうと思います。

同窓会掲示板

このコーナーでは、クラス会や部活、研究室OB会などの開催のご案内をしています。

同窓会開催予定のある方はぜひこのコーナーをご利用下さい。

同窓会会報は年2回（春、秋）発行予定です。同窓会ホームページでは随時同窓会案内が可能です。会報またはホームページに掲載希望の方は日時、場所、内容、連絡先など明記の上、同窓会事務局 (mail@sums-aa.com) までご連絡ください。

皆さまの利用をお待ちしております！

卒業生だより

医用工学部医用電子工学科（現在臨床工学科）第1期卒業生の山田康晴です。平成17年4月から医用工学部臨床工学科に9年ぶりに戻りました。私は平成9年の4月に大学から臨床に戻り、病院では臨床工学部の立ち上げ、人工透析室・人工心臓業務の立ち上げと、なかなか臨床工学技士が一般的に出来ない裏方的業務（病院建築関係・設備関係等）から、病院サイトの経営的業務までやらせていただきました。また、病院機能評価に関係した仕事も行うことが出来ました。この経験を現在は、学生に臨床現場での臨床工学技士の役割（患者管理・医療危機管理・コスト管理）等や、他の医療職員とのかかわりなどを、身をもって体験したことを話してあげることができ、今は大変役立っています。現在の大学は私が在籍していたときは大きく違った感じがします。学科名は、医用電子工学科から現在

は臨床工学科と変更になり少しさびしい感じがします。学生の雰囲気も当時と比べると大きく変わった感じがします。卒業時には国家試験受験という大目標があり、大学入学時から自分の将来を決めて、目的を持って入学しているからなの、私たちの頃に比べると、かなり学生が落ち看いている、おとなしい感じがします（我々のときよりも今の学生のほうが大人なのかもしれない?）。

卒業生の方に朗報です。平成18年の後期から科目と履修制度が開始され、卒業生で臨床工学技士を目指したい方にはお薦めのコースが出来ました。臨床工学技士取得に関する科目で、過去の取得した単位の不足分を履修して単位認定されれば、臨床工学技士受験資格が与えられるものです。このコースのメリットは、1科目ごとの授業料で済みます（入学金は発生しない）ということなのです。迷って

いる方は一度大学に電話してください。

卒業生の皆さん、大学の近くに来ることがあれば一度は寄ってください。何かいい情報交換でも出来ればと考えています。よろしくお願いします。



山田康晴さん
医用電子工学科1期生

まず、YKY君MCさん結婚おめでとう。DR君、病院近い割にはちょっと冷たいんじゃないか。K1君忙しすぎてノリが悪いんじゃないか。K2君、C01君どちらが先に結婚するのか。06君は元気にやっているのか。次の休みには誰のところへ遊びに行こうとか。ほけっとしたときに考えるのは大学の友達のことが多い気がする。

大学に入ったのはもう6年と半年も前の事で、放射線技師の仕事もいまいまいわかっていなかった。そんなに放射線技師という職業に魅力を感じていなかったのだと思う。だから、1年生の頃は授業が長く感じて辛かった。2年生の頃は実習とレポートに追われていたし、3年生の頃はもっと追われていた。

本当に放射線技師になりたいと思ったのは4年生になって早川研究室に入ってか

ら。それからは、勉強は楽しく思え、国家試験のプレッシャーもそれほど平く感じなかった。

きっかけは、卒業研究で取り上げていた胃透視を自分もやってみようと思ったこと。

とても技術のいる検査だという事を知って、自分ならどう検査するか考えていた。胃透視を仕事をするようになった今でも楽しいと思える。

思い通りにはいかないし、早川先生の撮った写真にはまだまだ遠くおよばないけれど、改善を重ねて少しずつでも近づけるようにしたい。

大学生活を振り返ると辛かったことって少なくはない。

だけど、一緒に辛いときを乗り越えた友達、支えてくれた先生、鞭を打つ先生。周りの人たちがいたからこそ大学生活がとても良い大切な時間だったと思えるし、鈴鹿医療科学大学に通うことが出来て本

当に良かったと思う。今だって、仕事で疲れていても友達とって話をするともっとがんばらないとモチベーションが上がる。みなさんほんとうにありがとうございます。これからもよろしく願います。11月の碧鈴祭で会えるのを楽しみにしています。



水野陽平さん
放射線技術科学科 10期生

OLIVE同窓会を開催して

放射線技術科学科10期生 本多弥生さん



7月15・16日(土・日)、夏晴れの暑い週末に、第1回OLIVE同窓会が開催されました。創立生である9期生から12期生まで約20名の参加者が集まり、鳥羽の扇芳閣に泊まりました。1日目は、赤福水を食べ、足湯など温泉を満喫した後、夕食ではゆかたに着替え、飲んで歌って学生に戻ったようにはしゃいで楽しみました。2日目は、船を貸切り、イルカ島へ行きました。本当はイルカの形の黄色いチャッピー号に乗りたかったのですが、2億円もかけたにもかかわらず、設計ミスで2回ほど航海して廃船になっており、断念して他の船に乗りました。船での移動はわずかの時間でしたが、船上は風が大変気持ちよく、皆さま和らぎました。イルカ島では、イルカのショーやアシカのショーを楽しみました。特にアシカの「夢子」は18歳とは思えない技の数々を次々に披露し、とても驚かされました。その後、伊勢

神宮へ行きました。おかげ横丁では、伊勢うどんやメンチカツなどの食べ歩きを楽しみました。伊勢神宮では天照皇大神宮を参拝し、放生飼いの鶏を見て喜んだり、お守りを買ったりしました。

卒業後、初の同窓会だったので、何年かぶりに会った子も多く、かなり話も弾みました。みんな学生時代と変わらない明るさに増して、それぞれの地方でそれぞれの仕事を頑張っており、学生の頃は分からなかった社会人の楽しいことも辛いことも一つ一つ乗り越えているんだなあと思いました。今回の同窓会で友達の大切さを改めて感じました。とても楽しい2日間でした。

次回同窓会は3月に広島で開催する予定です。また、詳しいことが決まり次第連絡がいくと思うので、多くの参加者が集まることを願っています。